

2年目・阪口

先発枠狙い直球勝負

ベ이스ターズにまた一人、楽しみな高卒右腕が1軍デビューを果たした。北海高から昨季ドラフト3位で入団した阪口皓亮投手(19)。2軍の先発ローテーションを守り抜き、オフには国際大会で好投。ラミレス監督は春季キャンプ1軍への招集も示唆している。阪口自身が重ね合わせるのは1学年先輩で昨季6勝を挙げた右腕だ。「京山さんの後に続いて、超えるのが目標。持ち味の直球で押し込めたい」と意気込む。

(松村 祐介、写真も)

年末年始は地元の大坂に帰省し、英ヤッチボールやランニングで体を動かすを養ったという阪口。10日は横須賀のグラウンドで、同期入団の桜井とキ。昨季は2軍で18試合に登板。投球回

駆け上られ
70年目のV

キャッチボールで威力ある球を投げ込む阪口。横須賀市長浦町のベ이스ターズ総合グラウンド

春季キャンプ1軍スタートも

数はチーム最多の82イニングを誇った。防御率は6・15だったが、プロ1年目の途中に新球を習得。「スプリットを決め球にできたのが一番良かった」と飛躍のきっかけをつかんだ。

プ(W杯)。2次リーグのドミニカ共和国戦で「力感なく投げられたのも大きかった」と7回無失点。1年間で順調に成長した右腕を「クイック投球も制球も良くなった」とラミレス監督も評価する。

シーズン中盤に覚えたという大家2軍投手コーチ直伝のウイニングシヨットは140キロ前後。186センチから投げ下ろす自慢の直球も4ギアアップの最速152キロを記録するなど、本格派投手として投球の幅が広がった。

昨季序盤、台所事情の苦しい先発陣の穴を埋めた京山のように、背番号12の右腕も今季の開戦ローテーション争いに名乗りを上げる。「キャンプまでにこつち(横須賀)で実戦まで投げられるように調整してアピールできた」。新星が光り輝く時はそう遠くないはずだ。



コロンビアで行われたU-23ワールドカップで好投した阪口
＝昨年10月、パランキジャ(共同)

学生野球 上茶谷ら選出

日本学生野球協会は10日、2018年度の表彰選手および部員(大学26人、高校47人)を発表し、大学の部はプロ野球の横浜DeNAからドラフト1位指名された東洋大の上茶谷大河投手(東都大学)、楽天1位の立命大・辰己涼介外野手(関西学生)、ロッテ3位の早大・小島和哉投手(東京六太

学、神奈川大の夏井脩吉内野手(神奈川大学)らが選ばれた。高校の部は甲子園大会春夏連覇を果たした大阪桐蔭の主将、中川卓也内野手を選出。夏の甲子園連覇で旋風を起した金足農(秋田)の佐々木大夢外野手や、横浜の主将を務めた齊藤大輝内野手も選ばれた。